



東京文化発信プロジェクト

東京から生まれる新しい文化の波

P R E S S N E W S L E T T E R Vol.2



当プレスニュースレターでは、東京文化発信プロジェクトの多様な事業を、さまざまな切り口からご紹介しています。

2009年9月16日
東京文化発信プロジェクト室
(財団法人東京都歴史文化財団)

今月のテーマ ＊ 伝統芸能



『東京発・伝統WA感動』実行委員会事務局長インタビュー

江戸から東京へ伝えられた邦楽の魅力

今秋、東京文化発信プロジェクトでは、伝統芸能が盛り上がります。そのうちのひとつが子供から大人まで、邦楽・日本舞踊・民俗芸能・落語に気軽に触れていただく『東京発・伝統WA感動』。西明事務局長に、プロジェクトへの思いを聞きました。



各地の伝統芸能が洗練されて江戸の文化へ

日本の伝統芸能と聞いて、皆さんはどんなイメージをお持ちでしょうか。憧れはあるけれど、なんだか難しそう。内容が分からないと退屈なのは。専門の劇場などは敷居が高い。そもそもどこで鑑賞できるかわからない等々。現代の子供たちはもちろん、戦後生まれが大多数になった大人にとっても、日本に古くから伝わる文化や芸能が縁遠い存在になっているのは、たいへん残念なことだと思います。

能、狂言、歌舞伎、邦楽といった日本の伝統文化・伝統芸能は、自然と共に生き、人の和を大切にする日本人の心が育んできた芸術です。四季折々の風物を折り込んだ楽曲や、豊作を天に感謝する踊り。そうした日本各地の芸能が、江戸という大都市に集まり、人々を楽しませる「粋」な文化として徐々に洗練されていきました。

今回「東京文化発信プロジェクト」の活動の一つとして2009年8月よりスタートした『東京発・伝統WA感動』は、江戸から東京へと受け継がれてきた日本独自の伝統芸能を紹介するフェスティバルです。邦楽コンサート『東都の秋 月を奏でる』をはじめ、子供たちを対象とした邦楽入門コンサート、親子でふれあう日本舞踊、道具仕立ての芝居ばなし（落語）など、普段あまり伝統芸能に接するチャンスのない方にも楽しんでいただけるよう、工夫を凝らしたよりすぐりの公演をお届けします。

「本物」に「生」で触れる経験が感動を呼ぶ

こうしてお話している私自身、プロジェクトに参加するまでは特に日本の伝統芸能に詳しくはなかったわけではありません。たとえば邦楽に使われる尺八も、テレビや映画の時代劇で「虚無僧が吹いていた楽器」といったイメージしかありませんでした。しかし邦楽コンサート『東都の秋 月を奏でる』の出演者の一人、藤原道山さんにお会いして演奏を聴き、その多彩な音の魅力や響きの奥深さにすっかり圧倒されてしまいました。

本物に触れる。生で見る。直に聴く。そうした経験は、芸術との出会いには必要不可欠でしょう。今回の『東京発・伝統WA感動』では、邦楽や日本舞踊、落語など伝統芸能の分野からはもちろん、作曲家の千住明さんや作詞家の秋元康さんなど、各界の最前線で活躍する皆さんが、客席の皆さんと直接触れ合いながら、一流のパフォーマンスを披露してくださいます。

今の子供たちは、インターネットやテレビから受けるバーチャルな情報だけを見聞きして「分かったつもり」になってしまいがちです。そうした子供たち、また大人たちにも、ぜひ「本物」の日本の伝統芸能に「生」で触れ、その魅力を存分に感じて欲しいと思います。

さらに、そうした数多くの素晴らしい伝統文化を受け継ぎ、世界に向けて発信し続ける「東京」の魅力もこの機会にぜひ、再発見してもらえたら嬉しいですね。

TOPIC

江戸で生まれた長唄、清元節とは？

長唄と清元節は、ともに歌舞伎音楽として江戸で花開いた三味線音楽。長唄は17世紀末頃から、謡曲、地歌、浄瑠璃など他ジャンルの旋律や題材を取り入れてきたため幅広い曲調がある。リズムカルな三味線、伸びやかな唄など、親しみやすく多くの演奏人口を持つ。清元節は、18世紀に人気を博した豊後節を祖に持ち、文化年間（文化元年～14年）に初代清元延寿太夫が創始。高音を活かした艶のある語り、澄んだ音色の三味線による、しっとり情緒ある曲から軽妙な曲までの、豊かな表現が特徴である。

参考資料：東京発・伝統WA感動ホームページ「邦楽への誘い」 <http://www.dento-wa.jp>

さいめい かずしげ
西明 一茂

「東京発・伝統WA感動」
実行委員会事務局長





今藤長十郎さんインタビュー

江戸＝東京に三味線の音が響くとき

8月28～30日開催の邦楽入門コンサート『感動体験・日本の音!』、
10月1日の邦楽コンサート『東都の秋 月を奏でる』にご出演の、
四世 今藤長十郎さんに、三味線音楽の奥深い魅力について伺いました。

とにかく聴いて、興味を持ってもらいたい

——邦楽入門コンサート『感動体験・日本の音!』に、
今藤さんはどのようなお気持ちで参加されましたか？

「今回の入門コンサートの、たとえば初日は『とにもかくにも、はじめの一步』と題して、長唄、清元、山田流箏曲、端唄、お囃子と、様々な邦楽のジャンルを聴き比べる試みでした。普段の演奏会では一曲まるごと演奏される邦楽の、特徴的な“さわり”をご紹介しながら専門家の先生の解説を聞くという内容でしたから、初心者の方も親しみやすかったのではないのでしょうか。

この頃の若い方って一失礼な言い方かもしれませんが一ぱっと見ただけで『フィーリング合わない』『イメージ違う』って、簡単に片づけてしまわれるでしょう？(笑) でも私は長唄を、そんなふう片づけて欲しくありません。とにかく何度か聴いた上で、興味を持って欲しいですね。

——邦楽の魅力を知るには、やはり「生」で触れる体験が必要とお考えでしょうか？

「生の音は、生きた音楽。その場の空気を伝わってくる音と、家でCDを聴く音は、まったく別のもので。特に長唄にも使われる三味線の繊細で微妙な響きは、どんな技術を使っても録音では伝わりきれません。それに三味線は音が変わりやすく、初心者の方によく『どうしてそう、しょっちゅう楽器をいじるんですか』と聞かれるくらい何度も調整しなければなりません。ピアノのようにキーを押せばいつも同じ音が出る楽器と比べたら、たいへん手がかかります。でも逆に『私はちょっと低めの音が好き』『この広さの会場ならこういう音が合う』などと考え、微妙に音を違えて弾くことが三味線にはできるのです。1+1=2で終わらず、プラスαの表現が無限に広がる楽器といえるでしょう」



現代の人にも 魅力の伝わる 「21世紀の長唄」

——江戸という都市と、
三味線とのつながりは？

「三味線は日本の楽器の中では新しいもので、江戸時代に歌舞伎といっしょに発達をしてそれこそ一大ブレイクを遂げました。もし江戸の町にタイムスリップをしたら、長唄、清元、浄瑠璃、端唄などに合わせたいろいろな種類の三味線の音が、それこそ辻を曲がるごとに聴こえてくるでしょう。“江戸の音”といったら、それは“三味線の音”なんですよ」

——江戸から東京へと受け継がれてきた三味線の魅力を今に伝えるコンサートが10月1日に開かれますね。

「邦楽コンサート『東都の秋 月を奏でる』では、古典の名曲やオーケストラと邦楽器のコラボレーションとともに、秋元康さん作詞と私の作曲による創作曲をお届けいたします。長唄など邦楽の曲は、『何を言っているか分からない』とよくいわれます。古典の曲では江戸時代から伝わる言葉を使いますし、“うみじ”といって歌詞の音節を特徴的に長く伸ばすため、慣れていないと聞き取りづらいのです。そこで今回の創作曲では、秋元さんに現代の方が耳で聴いて分かりやすい言葉で歌詞を書いていただき、私も“うみじ”を入れる箇所を工夫するなどして歌詞を聞き取りやすく、それでいて長唄の良さはお伝えできるようにと考えて作曲いたしました。

江戸の町に三味線の音があふれていたように、邦楽は何百年も日本の人々に愛されてきました。『東京発・伝統WA感動』を通じて、ぜひ多くの方に邦楽の世界に触れ、魅力を感じていただきたいと思います」

TOPIC

長唄の三味線は「バイオリン」？

三味線には、主に棹の太さによって「細棹」「中棹」「太棹」の三種類がある。今藤長十郎さんは、この違いを邦楽の初心者や海外の方に説明する際、義太夫や浄瑠璃、津軽三味線に使う太棹を「コントラバス」、清元や常磐津、地唄に使う中棹を「チェロ」「ヴィオラ」、長唄に使う細棹を「バイオリン」にたとえるそうだ。長唄の三味線は、旋律の動きが早くリズムミカルなことが特徴。その点が、オーケストラ全体の旋律をリードし、独奏楽器としても活躍するバイオリンと共通点が多いからだという。

いまふじ ちょうじゅうろう

今藤 長十郎

長唄今藤流家元。昭和26年に4歳で初舞台。昭和59年四世 今藤長十郎襲名。家元継承。国内公演をはじめ、今年9月にもモナコのオペラハウス出演など海外公演も多く、各メディア出演など幅広く活躍。(社)長唄協会常任理事、大阪芸術大学客員教授、国立劇場養成課講師、NHK 文化センター講師、東山女子学園教授など要職多数。



東京の外国人が見る“東京文化” 西欧文化の取り入れすぎは、もったいない

日本がもっとも古い関係を持つ国のひとつがオランダ。
今年、日本とオランダの交易開始からちょうど400周年になります。
そのオランダから来日、都内のフラワーショップでデザイナーとして
活躍中のハンス・ダーメンさんに東京の魅力を伺いました。



Hans Damen
ハンス・ダーメン

フラワーデザイナー。1964年、オランダ・ハーグ生まれ。88年に国家資格「オランダ マスターフローリスト」取得。93年に来日。現在、六本木「ゴトウフローリスト」でチーフ・デザイナーとして活躍。

文化的な催しに恵まれた街

僕が日本に来たのは、今から16年前。当時都内にあった
フラワースクールがオランダの花の雑誌で講師を募集して
いて、それに応募したのがきっかけです。実は、それ以前
から日本には行ってみたいと思っていました。というも、
もともとアート系のイベントが大好きで、日本からやって来
る和太鼓や舞踏の公演へ足を運ぶうちに、日本への興味
が膨らんでいったんです。そこで、迷わず応募しました。

来日した頃は、まず日本らしいアートを観てみたいくて歌
舞伎や能に出かけました。歌舞伎は、コスチュームや音楽
の面白さに惹かれました。それにセリフがわからなくともス
トーリーがイメージしやすいですね。

美術展やコンサートにもよく行きました。東京はこうい
った催しが多く、すべてを観る時間がないのが残念なくらい
(笑)。今は平日は東京で働き、休みの日は地元で過ごす
ことが多いけれど、好きなものは都内まで観に行きます。

花に見るヨーロッパと日本

現在の仕事は、個人用の花束づくりからパーティデコ
レーションまでとさまざまですが、花ひとつをとっても、日

本とヨーロッパでは楽しみ方や流行には違いがあると感じ
ます。例えば、生活の中での花。ヨーロッパの家庭にはい
つでも花があります。それも1ヵ所だけでなく、玄関、
テーブル、テレビの上などあちこちに、その場に合った花を
飾ります。また、誕生日や個人宅でのパーティでは花を贈
ることも多い。それくらい花は生活に欠かせないものにな
っているんです。花束なら、日本は花をたっぷり使った
スタイルが好まれますが、ヨーロッパでは最近、主役はグ
リーンで花はアクセントとして使うシンプルなものの人気で
す。数年前から人気の“禅スタイル”の影響もあるかもしれ
ません。100年前のヨーロッパでも同じようにジャポニズ
ム・ブームがあったんですよ。

どちらかという日本は西欧の文化を取り入れる傾向が
ありますが、僕にとってそれはもったいないこと。せっかく
の日本の個性がなくなってしまう気がします。住宅にしても
畳を敷いた日本らしい家が減っているのはとても残念。10
年程古い日本家屋に住んだことがあります。床の間も縁
側もあってとても気に入っていました。古くからの良い文化
は大事に残して行ってほしいですね。

データで読み解く “東京文化”



—文化財編—

国宝

東京	265件
京都	226件
奈良	198件

重要文化財

東京	2,342件
京都	2,241件
奈良	1,377件

重要無形文化財

東京	47件
京都	14件
石川・沖縄	7件

伝統文化を語る上で欠かせない「文化財」。建造物や
美術工芸品などの「有形文化財」は、重要なものを「重
要文化財」、特に価値が高く国民の宝たるものを「国
宝」として保護の対象となっている。また、演劇・音楽・
工芸技術などは「無形文化財」とされ、重要なものを
「重要無形文化財」としている。

現代都市のイメージが強い東京だが、「国宝」「重
要文化財」「重要無形文化財」とも、全国でトップ。国
宝は265件で、全国宝数の約25%を占める。また重要
文化財は2,342件で、全体の18%。重要無形文化財は
47件で、これは全体の約42%に上る数である。

出典：文化庁ホームページ「文化財指定等の件数」 <http://www.bunka.go.jp/bunkazai/shoukai/shitei.html>

EVENT A La Carte

イベントアラカルト

東京文化発信プロジェクトの事業で、今後注目したいイベント、開催された公演のレポートなどを、本コーナーでご紹介いたします。

注目の イベント

東京大茶会2009

昨年も約1万1千人の来場者を集めた、誰もが参加できる『大茶会』

東京文化発信プロジェクトの一環として2008年10月に開催された第一回『東京大茶会』は、2日間に1万1千200人もの来場者を集めました。

二回目となる今年は、前回も好評だった浜離宮恩賜庭園(中央区)と、新たに江戸東京たてももの園(小金井市)を加えた二カ所を会場に、茶の湯にまつわる様々な催しを用意しています。

浜離宮恩賜庭園では「中島の御茶屋」「芳梅亭」、江戸東京たてももの園では「高橋是清邸」と「西川家別邸」と、いずれも歴史ある建物の趣を感じながら伝統的な『茶席』を体験。他にも、野外の自然の中で気軽に楽しむ『野点』、親子で参加できる『茶道教室』、昨年も大好評だった外国人向けに英語で解説する『英語で野点』(浜離宮恩賜庭園

のみ)などが開かれます。

また、茶会で供される和菓子は、高島屋の協力により、島根・松江の老舗4店が手がけた「東京大茶会」オリジナル。茶の湯だけでなく庭園、建物、菓子・江戸から東京へと受け継がれ洗練されてきた文化の粋を心ゆくまで楽しめる4日間になるでしょう。

(開催日)

●江戸東京たてももの園

平成21年10月10日(土)～11日(日) 10:00～15:30

(江戸東京たてももの園開園 9:30～16:30 最終入園時間 16:00)

●浜離宮恩賜庭園

平成21年10月17日(土)～18日(日) 9:30～16:00

(浜離宮恩賜庭園開園 9:00～17:00 最終入園時間 16:30)

※茶席はすべて事前申込制

東京大茶会公式サイトwww.tokyodaichakai.jp



オリジナル和菓子(イメージ)

公演 レビュー

東京発・伝統WA感動

邦楽入門コンサート『感動体験・日本の音!』

聴いて、触って。

新鮮! 邦楽の楽しさ

夏休みも終盤を迎えた8月28～30日、邦楽入門コンサート『感動体験・日本の音!』が東京芸術劇場で行われました。この催しは、普段は聴く機会の少ない邦楽を、“聴く・唄う・演奏する”という3ステップで学べる3日間の体験型コンサート。今回は、長唄・清元・端唄・囃子・山田流箏曲の第一線で活躍する演奏家が一堂に会し、日ごとに内容をレベルアップさせながら、曲や邦楽器の特徴について実演と解説で紹介。さらに終演後は、ステージ上で実際に邦楽器に触れられる体験コーナーも。始めはおっかなびっくりだった子供たちも、実際に音が出ると目を輝かせていました。鼓に挑戦した小学3年生の双子の兄弟は、「鼓は叩くとボンッと音がするから面白い!」と満足げでした。



キッズ伝統芸能体験

能の所作を通じて 伝統芸能を体感!

おけいこ 見学 レポート

伝統芸能に初めて触れる子供向けの体験プログラム『キッズ伝統芸能体験』。一流の芸術家が指導し、来年3月の発表会を目指すプログラムです。8月31日に宝生能楽堂で行われた、「謡・仕舞」コースに伺いました。

当日は台風の中、ほとんどの生徒がお稽古に参加。かかとを上げずに足を進める能の基本所作、「摺り足」からお稽古をスタートです。慣れない動きにとまどい、目は足元を追ってしまいがちに。「まっすぐ、前を見て!」と指導の東川尚史さんの声が飛びます。そして腕を広げて移動する「ヒラキ」など、新しい所作にも挑戦。後半は「謡」の指導もあり、子供たちの真剣な面持ちが印象的でした。「子供たちは飲みこみが早く、みるみる上達しますね。教えがいがあります」と東川さんも感心しきり。いい発表会が期待できそうです。



	東京ならではの芸術文化の創造・発信	芸術文化を通じた子供たちの育成	
9		<p>東京発・伝統 WA 感動</p> <p>19日(土) 日本舞踊「東都八景四季賑(あずまはつけいしきのにぎわい)」/国立劇場大劇場 <特別イベント> -親子でふれあう日本舞踊-/国立劇場大劇場</p> <p>22日(火/祝) 落語「大江戸寄席」/有楽町朝日ホール</p>	<p>青少年のための舞台芸術体験プログラム</p> <p>24日(木) 東京バレエ団「ラ・バヤデル」 ゲネプロ公開/東京文化会館</p>
		<p>TOKYO MUSIC CIRCLE in ルネこだいら</p> <p>25日(金) 日本音楽集団による和楽器コンサート</p>	
		<p>TOKYO MUSIC CIRCLE in 都庁前都民広場</p> <p>27日(日) J-POPアーティストとJAZZバンドによる合同ライブ</p>	
		<p>TOKYO MUSIC CIRCLE in LIQUIDROOM</p> <p>28日(月) 音楽とメイクが交わるクロスアートライブ(伊藤由奈ほか)</p>	
		<p>TOKYO MUSIC CIRCLE in 東京厚生年金会館</p> <p>30日(水) 親子三代で楽しめるJ-POPミュージック(今井美樹ほか)</p>	<p>ミュージック&リズムス TOKYO KIDS</p> <p>26日(土)~10月18日(日) ワークショップ/ 高尾の森わくわくビレッジ</p>
10	<p>フェスティバル/トーキョー 09秋</p> <p>17日(土)~11月1日(日) *F/T参加作品 2本同時上演 「生きてるものはいないのか」 「生きてるものか(仮題)」 作・演出:前田司郎(五反田団) 東京芸術劇場小ホール1</p>	<p>TOKYO MUSIC CIRCLE in 東京文化会館</p> <p>1日(木) 実力派岡本知高と東京FM少年合唱団によるコンサート</p>	<p>青少年のための舞台芸術体験プログラム</p> <p>8日(木) 東京二期会「蝶々夫人」 ゲネプロ公開/東京文化会館</p>
	<p>フェスティバル/トーキョー 09秋</p> <p>23日(金)~11月3日(火/祝) 「ろじ式」 作・演出:松本雄吉(維新派) にしずがも創造舎</p>	<p>東京発・伝統 WA 感動</p> <p>1日(木) 邦楽コンサート「東都の秋 月を奏でる」/東京芸術劇場 大ホール</p>	<p>ミュージック&リズムス TOKYO KIDS</p> <p>11日(日)~24日(土) ワークショップ/田園調布せせらぎ公園</p>
	<p>ラグジュアリー・ファッションの欲望 特別展示 妹島和世による空間デザイン/ コム・デ・ギャルソン</p> <p>10月31日(土)~ 2010年1月17日(日) 東京都現代美術館</p>	<p>東京大茶会2009</p> <p>10日(土)~11日(日) 江戸東京たても園</p>	<p>パフォーマンスキッズ・トーキョー</p> <p>12日(月/祝) 発表公演/バルテノン多摩</p>
		<p>東京大茶会2009</p> <p>11日(日) 落語「道具仕立て芝居はなし」/江戸東京博物館ホール</p>	<p>青少年のための舞台芸術体験プログラム</p> <p>23日(金) 東京都交響楽団 「第686回定期演奏会」 ゲネプロ公開/東京文化会館</p>
		<p>東京大茶会2009</p> <p>17日(土)~18日(日) 浜離宮恩賜庭園</p>	<p>ミュージック&リズムス TOKYO KIDS</p> <p>25日(日) ワークショップ/東京都庁前都民広場</p> <p>31日(土)~11月1日(日) リハーサル&発表コンサート 東京都庁前都民広場</p>
11	<p>フェスティバル/トーキョー 09秋</p> <p>6日(金)~15日(日) 「あの人の世界」 作・演出:松井周(サンブル)/東京芸術劇場小ホール1</p> <p>7日(土)~11日(水) 「H3」 振付:ブルーノ・ベルトラオ(グルーポ・チ・フーア)【ブラジル】 にしずがも創造舎</p> <p>15日(日)~20日(金) 「花は流れて時は固まる」 構成・演出・振付:黒田育世(BATIK)/にしずがも創造舎</p> <p>15日(日)~22日(日) 「個室都市 東京」 構成・演出:高山明(Port B) 池袋西口公園 ※24時間オープン(予定)</p> <p>16日(月)~23日(月/祝) 「4.48サイコシス」 作:サラ・ケイン 演出:鮎屋法水/あうるすぽっと</p> <p>19日(木)~22日(日) 「赤鬼」 作:野田秀樹 演出:プラディット・ブラサートン【タイ】 *F/T参加作品 東京芸術劇場小ホール2</p> <p>20日(金)~23日(月/祝) 「農業少女」 作:野田秀樹 演出:ニコン・セタン【タイ】 *F/T参加作品 東京芸術劇場小ホール1</p>		
	<p>フェスティバル/トーキョー 09秋</p> <p>13日(金)~12月20日(日) 「F/Tステーション」/東京芸術劇場前 チケット購入、関連書籍やオリジナル グッズの販売。併設のカフェではイベ ントやライブを予定。</p>	<p>東京発・伝統 WA 感動</p> <p>21日(土) 民俗芸能「東京・江戸の賑わい」/国立劇場小劇場</p>	
	<p>フェスティバル/トーキョー 09秋</p> <p>23日(月/祝)~27日(金) 「デッド・キャット・パウンス 死んだ猫も跳ね返る」 演出:クリス・コンデック【アメリカ/ドイツ】 にしずがも創造舎</p> <p>25日(水)~29日(日) 「アジア舞台芸術祭2009東京」 *F/T提携事業 東京芸術劇場中ホール、小ホール2 ほか</p> <p>26日(木)~29日(日) 「フォト・ロマンス」 演出:ラビア・ムルエ、リナ・サーネー【レバノン】 東京芸術劇場 小ホール1</p>		
			<p>Information</p> <p>東京アートポイント計画</p> <p>様々な人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京の多様な魅力を地域・市民の参画により内外へ発信することを目指す事業で、さまざまなアートプログラム、人材育成プログラムを展開しています。</p> <p>8月23日(日)~2010年3月13日(土) レクチャー・シリーズ 「Tokyo Art School」 ヒルサイドプラザ</p> <p>8月30日(日)~2010年3月7日(日) インターン・プログラム 「シッカイ屋」 足立区生涯学習センター ほか</p> <p>9月1日(火)~12月9日(水) 墨東まち見世2009 主に曳舟・京島・東向島・八広・押上エリア</p> <p>9月12日(土)~2010年3月 アーティスト・イン・児童館</p> <p>10月4日(日)~2010年3月 イザ! カエルキャラバン! in 東京</p> <p>http://www.bh-project.jp/artpoint/</p>

東京文化発信プロジェクト 概要

東京文化発信プロジェクトは、東京ならではの芸術文化の創造・発信と、芸術文化を通じた子供たちの育成を目的として、東京都と東京都歴史文化財団が芸術文化団体、アートNPO等と協力して実施しているプロジェクトです。

演劇、音楽、伝統芸能、美術など様々な分野のイベントやフェスティバル、まちなかで市民とアーティストが協働するアートプログラム、まちとアートをつなぐ人材の育成事業、子供向けの体験型プログラムなどの事業を展開しています。

東京は、世界に通用する日本の伝統文化である浮世絵や歌舞伎などをはぐくみ、今も身近に実体験できる都市です。また近年では、様々なアーティストたちによる文化芸術の創造拠点になっているほか、アニメーションに代表されるポップカルチャーを次々と世界へ送り出しています。

アーティストと市民による創造的な活動とその成果の発信を通じて、東京が「文化芸術創造都市」であることを、国内だけでなく世界に強くアピールしていきます。

実施運営の統括は、財団法人東京都歴史文化財団の東京文化発信プロジェクト室が行っています。

東京文化発信プロジェクトは、東京都の「10年後の東京～東京が変わる～」(平成18年度策定)への実行プログラムとして改定された「『10年後の東京』への実行プログラム2009」(平成20年度12月策定)における、目標6「都市の魅力や産業力で東京のプレゼンスを確立する」、施策32「東京から世界へ 新たな文化の創造・発信」の指定で、重点的に実施されています。

報道関係の方々へ

「東京文化発信プロジェクト広報事務局」を開設しました。
さまざまな切り口のプレスニュースレターを毎月発行し、
プロジェクトや各事業について情報提供をさせていただきます。
お気軽にお問合せいただきたく、よろしく願いいたします。

<報道関係者からの問い合わせ先>

東京文化発信プロジェクト広報事務局 富樫／大原
電話：03-3818-2465 FAX：03-5689-0455
E-mail:tokyobunka@prinfo.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-24-8-11F

次号 (vol.3) の予告
特集テーマ：「グローバルアイ」
10月中旬発行予定の次号では、グローバルな関わりを切り口に当プロジェクトを紹介します。